

介護福祉士を夢みて

伊藤実里（第五中学校3年）

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち

「どうしようかなあ。」最近、この言葉をよく使い、その時は本当に考え込んでいます。三中和五中の統合があって、五中になじめるかなあと思いがち



少年の主張大会

8月10日、新津第二中学校を会場に少年の主張大会が行われました。この大会は、市内の中学生が日ごろ考えている清新で建設的な意見を発表する場として設けられているものです。13回目を迎えた今年の大会は、市内の各中学校から選出された12名が、身近な出来事や体験を通して感じたことをテーマに熱弁を振りました。

今号では、優秀賞の発表文をご紹介します。

何気なく過ごしてきた中、二からの一年と少し、気が付けば、もう受験という言葉がそこまで迫っています。「進路」ということについて、よく考え始めてきました。その結果、介護福祉士になりたいという、大きな夢を持つようになりました。小さい時は、看護婦さんにあこがれていた。理由は、よくあがりなことで、入院した時に親切にしてもらったからです。それから小学校六年生ごろまでそう思っていました。しかし、中学生になって進路の授業を受けると、社会福祉の関係に携わりたいたいと思いついた。介護福祉士になりたいと思うようになった。その後、最近になって介護福祉について調べていると、介護福祉士の方が本当に自分の就きたい職業だということに気がきました。

つまり、私の夢は看護婦さんから介護福祉士へと移り変わっていったのだ。それに近所のおばあさんとの出会いがきっかけだった。そのおばあさんという人は、いつも外を掃除していて、自分の家の庭だけでなく、道路までもいねいに掃いています。そして、通る人ごとに深々と頭を下げて、「おはようございませう。」と、あいさつをします。たとえ、相手の人があいさつを返してくれなくてもやめようとせず、学校の登下校中の小学生にも同じようなことをしています。時々通る人があいさつを返すと、「ありがたうございませう。」と、とてもにこにこした顔でお礼を言い、また頭を深く下げ、一礼。その時のおばあさんは幸せそうに、その人が遠くへ行くまで見送っています。私はそんなおばあさんが大好きで、会えばいつでも立ち止まり、あいさつをして簡単な会話を交わします。そんな時は、私も幸せな気分になります。

そして、私が考えたことは、一般的に人のいやがる老人介護を、将来できたらいいなということ。春休み、私は夢を実現するためにボランティアに参加することになりました。そこは、「かんばらの里」という老人ホームで、百人ほどの老人の方が生活しています。私と三人の友達、デイ・サービスをさせてもらいました。その仕事は、日替わりで十〜二十人ほどの老人の方の話し相手、車イスの移動の手伝い、レクの補助などがあり、どれも楽しくてやりがいがありました。

もできない人がたくさんいるという状態にあるそうです。そういう世間一般のことをよく考え、自分はどうしたいのかを自分の中で

つまり形成していきたいと思いいました。あの近所のおばあさんとの出会いや、ボランティアで学んだこと

☆市議会議員賞

母のようにな

早川理絵（第一中学校3年）

「あなたは何人家族ですか。」「七人家族です。」私はこう答えるのがずっと嫌でした。

私の家族は、父、母、兄、私、祖母、祖父、曾祖母つまりひいおばあちゃん七人家族です。近年核家族が増え、少人数の家族が多くなったと授業で習いました。私の知っている人たちはほとんどがそうです。だから世間と違う自分が恥ずかしくなりました。

中学生になって、私は夢ができました。それは外国の人と一緒に仕事で働くことです。授業で習う、全然知らない国の文化や言葉に、とても興味を持ったのです。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

「疲れた。」これが母の口癖です。（じゃあ仕事を辞めればいいのに）私はいつもそう思っていました。それから、母のもう一つの口癖は、「自分のために勉強しなさい。」この言葉を聞くたびに、（そんなこと分かっている。ほか）という気持ちが強くなりました。

そして、母と会話する機会も少なくなっていました。そんなある日、突然曾祖母が倒れました。幸い命に別条はありませんでしたが、すぐ入院することになり、祖母も付き添いで家を空け、家に残った家族は五人になりました。その日から忙しい母は、もっと忙しくなりました。いつものように疲れて仕事から帰ってくると、すぐに家事をやり、それから病院へ行く。こんなハードスケジュールを毎日こなしていました。そしてその時から母は「疲れた」とは言わなくなりました。でもそのころの私にはなぜだか分かりませんでした。

「母さん疲れてるんだ。お前も手伝えよ。」母の口癖に変わって、これが私に対する兄の口癖になりました。「忙しいから今はダメ。」私はそう言っていたも逃げているために家を出て、家族は四人になりました。

「母さんは自立した女性になりたい。男の人に負けないくらい働ける、自分の仕事に誇りを持つ人になりたい。」だからあなは勉強に励みなさい。そして賢く、誇りの持てる人にならなさい。」私は初めて分かりました。なぜ母は「疲れた」と言いがちで、楽しく仕事できたのか。曾祖母が入院してみんなが不安になった日から、なぜそう言わなくなったのかを。

「あなは家族は誰ですか。」「七人です。決して多くはありません。私にたくさんの事を教えてください。女性としての生き生きと働く女性の姿があったからです。つまり、母のような人たちにあがっていたのです。」

「あなは家族は誰ですか。」「七人です。決して多くはありません。私にたくさんの事を教えてください。女性としての生き生きと働く女性の姿があったからです。つまり、母のような人たちにあがっていたのです。」



伊藤ひとみさん



福田慎行君



稲月晶美さん



早川理絵さん



真柄剛君



佐藤千絵さん



伊藤実里さん